

鬼	北上市立	館
だ	の	り
第22号		

小さな資料の代表「鍾馗根付」
高さ四センチメートルです。



「巨大な権現様がお目見え」

家々を巡ってきた権現様に、頭をかんでもらった記憶はありませんか。写真の2メートルを超える巨大権現御輿は、北上市鍛冶町の小原亀男さんが趣味で製作したもの。九年大橋の渡り初めなど地域の催しで活躍してきましたが、鬼の館の開館10周年を記念して寄贈してくださいました。エントランスホール奥の一角に展示したところ、さっそく手を合わせたり一緒に記念撮影したりする来館者も。どこか愛嬌のある表情も手伝って、人気を呼んでいます。

『鬼の館』平成16年度 下半期 ～こんなことがありました～

「鬼・おに・オニ～鬼との語らい」は6月13日から7月11日までの延べ29日間にわたって、日本各地に伝わる様々な鬼の姿を紹介するべく、当館収蔵の資料を中心に開催しました。民間信仰、宗教に登場する鬼たち、玩具になった鬼たちに、鬼もさまざまだなあと思わずにはいられません。いつもは収蔵庫に眠っている資料をご覧いただくよい機会となりました。



前半に開催した日本の鬼の特別展に続き、世界のオニに焦点を当てたものが「鬼・おに・オニ～魔神と悪魔」です。9月26日から11月14日までの延べ50日間開催しました。各地域の民族習俗のなかに登場する各種仮面を展示することで畏敬や畏怖



といった人類共通の精神像を表現するのが目的。日本の鬼と比べながら、違いや共通点を楽しんでいただけたのではないでしょう。

◆特別展◆

鬼剣舞の伝わる地だからでしょうか、北上には面を中心に彫刻活動を楽しむ方が多くいらっしゃいます。これらのサークルや講座、個人に呼び掛けて公開の場を設定したのが、この「市民の彫刻作品展」で、11月23日から翌年2月20日までのロングランでした。市民が自由に活用できる博物館づくりを目指す当館が年に2回実施している市民への施設開放事業の一環です。



北へ逃れて大陸へ渡ったのではないか…様々なロマンをかきたてる歴史上の人物の一人源義経を扱った「絵で見る義経」展。大河ドラマの

影響もあって、各地で義経に関する展示会が行われています。浮世絵の色刷り版画である錦絵の収集に力を入れてきた当館が、今回その中から義経にかかわるものを集めて展示したものです。3月1日から4月17日まで開催中です。

◆鬼学講座◆

鬼に関する豊かな知識を育んでもらおうと、成人を対象に開講している鬼学講座も今年で11年目になりました。今年の内容は、第1回「祈りと信仰の系譜～東和の地域伝承宝物から」ふるさと歴史資料館 高橋信一郎氏、第2回「異説鬼剣舞のルート」みちのく民芸企画代表取締役 加藤俊夫氏、第3回「黒石寺と蘇民習俗」黒石寺住職 藤波洋香氏、第4回「原像鬼の姿」当館学芸員鈴木明美、第5回は移動講座を設定し、鬼が登場する習俗を見学していますが、今年は山形県上山市のカセドリ習俗でした。名物こんにやく尽くしのお膳も味わいながら、滅多に見ることのできない奇習を目の当たりにしました。



◆福豆鬼節分会◆

例年になく大雪の中、平成17年2月6日に福豆鬼節分会を開催しました。除けても除けても降り積もる雪に会場作りは難航しましたが、当日の吹雪は免れました。

前日から北上を訪れた秋田県若美町のナマハゲさん一行は、5日夜に和賀町岩崎地内の民家を門付けしたほか、市街地も訪問。遠巻きに見ているうちは楽しんでた子どもたちも、間近でみると迫力満点の模様でした。

ステージ上ではゲーム大会や餅つき体験のほか地域の保存会らによる鬼剣舞の公演が行われました。またステージの外には甘酒や豚汁のおふるまい、南部藩と伊達藩に伝わる餅文化の試食コーナーを設け、長蛇の列と立ち上る湯気がなお一層寒さを感じさせました。平成16年は地震や災害の多い一年だったことを振り返り、平成17年の平安を祈念した福もちまきでお開きとなりました。



◆鬼っこわんぱく講座◆

鬼の館では、夏休みと冬休みを中心に市内外の小学生を対象とした「鬼っこわんぱく講座」を開講しています。夏休みは、金ヶ崎の県南青少年の家に宿泊し、ストーリーも挿絵もオリジナルの紙芝居作りを行いました。冬休みには、恒例となった鬼剣舞体験。岩崎鬼剣舞保存会のご協力で、ステージ発表も行いました。受講生の一人、飯豊小学校の及川亮さんの感想をご紹介します。「ぼくは小さい頃からよくみちのく芸能まつりなどで鬼剣舞を見ていたので、あんなふうにかっこよく踊ってみたいなあと思っていたときに、わんぱく講座を知り申し込みました。はじめの頃はどんな風に動いたらいいのかもわからず、難しかったとしても疲れました。3年間続けて、やっとそれらしく踊れるようになった気がします。もっと上手になりたいので、来年も講座を受けたいと思っています。」地域文化に触れる機会になることを願っています。



◆芸能公演◆

北上に伝わる伝統芸能の育成、活性化もかねて、月に一度芸能公演のステージを設けています。出演は、市内の鬼剣舞保存会が主で、5演目前後を学芸員の解説付でご覧いただいています。晴れた日には屋外の開放的なステージが楽しめるということで、「第4日曜日」が定着してきたようです。最近では、小旅行の日程に加え計画的に鑑賞される方も。演じる側にも張り合いになるようです。



◆鬼ッズ・プレイミュージアム◆

平成16年度の鬼ッズ・プレイミュージアムは、「鬼を想像して表現する」ことをメインに行ってきました。夏休みには、魔除けとして活躍している鬼を館内資料で学習したあとに、紙粘土を駆使して自分の魔除けを創作。冬休みには、版画や切り絵の手法を使いながら、「自分が鬼だったら？」や「自分のまちに住んでいる鬼」を表現しました。思わず微笑んでしまうような鬼や感心してしまうような鬼が作り出されましたよ。



《平成16年度新収集資料》

平成16年度は、鬼の館開館10周年の節目の年でした。7月には記念式典や特別企画展「ゲゲゲの鬼太郎ワールド」を開催し、期間中は多くの来館者でにぎわいました。新収集資料のうち、「ゲゲゲの鬼太郎人形」らは、企画展前から当事業をPR。現在でも受付前に設置しており、カメラ付き携帯電話などで記念撮影する来館者が絶えません。また、表紙でも紹介しましたが10周年を記念して寄贈された「光明大権現」も話題を呼んだ資料の一つでした。

一方、3点セットで寄贈された鬼盃は、盃底部は鬼の顔、盃内部はおかめの顔、と大変ユーモラスな資料。酒文化の豊かさを垣間見せます。

点数こそ少ないものの、今年度の収集資料は、鬼の館の新たな顔となるような資料が多く、節目の年にふさわしいラインナップとなりました。

▼ゲゲゲの鬼太郎人形（購入）▼目玉おやじ人形（購入）▼妖怪ポスト（購入）▼バリ島木製ワニ面（北上市高橋正司氏寄託）▼木製バロン面（北上市高橋正司氏寄託）▼光明大権現台座ほか一式（北上市小原亀男氏寄贈）▼木製天狗（北上市小原亀男氏寄贈）▼祭はんてん（北上市小原亀男氏寄贈）▼鬼銘柄酒「鬼涙」（北上市瀬川誠氏寄

贈）▼鬼銘柄酒「鬼ごろし」（北上市瀬川誠氏寄贈）▼鬼盃3点（北上市瀬川誠氏寄贈）▼天狗盃（北上市瀬川誠氏寄贈）▼軸装「常盤御前之図」（購入）



軸装「常盤御前之図」



バロン面とワニ面

平成17年度のお知らせ

- ◎ 特別展「メキシコの鬼神」
6月14日～7月14日
- ◎ 企画展「三鬼画人展」
7月24日～9月15日
- ◎ 特別展「土産と産土鬼」
9月25日～11月20日
- ◎ 特別展「製作作品展」
12月1日～平成18年2月19日
- ◎ 特別展「平成17年度収蔵資料展」
平成18年2月28日～4月16日

▷鬼の館芸能公演

4月から10月までの第4日曜日
5月4日、8月14日
午後1時30分から屋外ステージで開催
鑑賞無料

▷鬼学講座

鬼に関する豊かな知識を育む成人向け講座
平成17年度は7月開講
定員40人で、先着順に受付

■詳しくは、鬼の館までお問い合わせください。

キミの思う鬼 どんな鬼??(3)

—鬼ッズ・プレイミュージアムより—

鬼ッズ・プレイミュージアムを訪れた子どもたちに「自分の思い描いている鬼」について質問してきました。これまで2回にわたり鬼の「におい・音」についての回答をご紹介してきましたが、今回は「味」です。

四人に一人。鬼はまずい、おいしくないと回答した子どもの割合です。多いと判断しますか。それとも少ないですか。寄せられた554人の回答のうち、138人がこう答えています。「にがい」と「しょっぱい」がほぼ同数。味はしないという回答も多くありました。実際の食べ物を例に挙げた回答を並べてみます。

- ・肉 ・豚肉 ・お菓子 ・メロン ・豆
- ・牛肉 ・タマネギ ・納豆 ・イチゴ ・天ぷら
- ・サクランボ ・酒 ・なまこ ・チョコレート
- ・おにぎり ・モモ ・カレー ・レモンあめ
- ・みそ ・リンゴとメロン ・ジュースの混ざった味

と、果物やお菓子類が主流。食べられるならデザートや間食で、といったところでしょうか。また、「髪はチョコレートで体はバニラ、腋は塩味」と部位別に回答してくれた人も。鬼をまるごと食べられそうですよね。「肉なべにすればうまそう」と調理法を提案してくれた人もいました。

さて、気になるのはおいしくないその中身なのが…。

- ・生ごみ ・汗 ・カメムシ ・脂っこい
- ・くさい ・草の味 ・鉄の味 ・カタツムリの味
- ・土の味 ・ワニの味 ・腐ったほうちょうの味
- ・カエルの味

と、少し地味な印象。「雪の味」「虹の味」などと合わせてみても、鬼は際だっておいしくない生き物ではなさそうです。「鬼の味は?」と聞かれたら「まずい!」とは答えてみるものの、ちょっと食べてみたい、ペロツとなめてみたい、そんな子どもたちの好奇心が見え隠れしています。

『できごと Oni Museum』

～新聞の見出しより～

超越性への崇拜と畏怖～23カ国100点の儀礼仮面を一堂に [週刊きたかみ 10/16]

特大に関係者も驚き～権現舞の御輿寄贈 10周年記念小原さん(北上)手作り

[岩手日日 10/21]

宗教にまつわる鬼紹介～鬼の館特別展、後期は世界にスポット

[岩手日日 10/27]

学ぼう真の鬼の心 宗教の中の鬼たち～鬼学講座 [週刊きたかみ 11/13]

表情多彩 違い楽しむ 鬼の館「特別展」～市民の彫刻100点展示個性豊かな作品そろ

[岩手日日 12/10]

「鬼学講座」が好評 民間宗教にもスポット～来年2月カセドリの移動研修

[岩手日日 12/23]

鬼の世界に触れて 冬休みワークショップ～親子で張り子面づくり

[岩手日日 12/28]

想像膨らませ鬼再現～親子で楽しむ「冬休みワークショップ」 [岩手日日 1/4]

市民の創作彫刻公開 2月までロングラン展示～約100点を展示して あの人の作品ス・ゴ・イ!! [週刊きたかみ 1/8]

鬼に迫る 北上冬休み工作教室「百鬼夜行」

[岩手日報 1/18]

鬼剣舞習得に励む 「鬼っこわんぱく講座」～小学生対象に節分行事で成果披露

[岩手日日 1/19]

ナマハゲ商店街にも出現 「うお～悪い子はいねえが」 [岩手日日 2/6]

福は内、鬼も内 全国の鬼北上に集う

[岩手日日 2/7]

北上・鬼の館で「福豆鬼節分会」～オニさんこちら家族連れが歓声

[岩手日日 2/7]

習得めざし重ねた練習～力強い演舞発表「わんぱく講座」 [岩手日日 2/10]

山形でカセド리를学ぶ「鬼学講座」～鬼学講座移動研修 [週刊きたかみ 2/12]

旧正月の習俗 カセドリ一考察

鬼の館 主任学芸員 鈴木 明美

1. はじめに

国内における習俗儀礼には、修験信仰に基づくものや修正鬼会のような寺院法会に基づくものなどのほか、原始信仰として現在も民間に根強く信仰される太陽信仰に理念を据えた農耕や漁労儀礼での収穫に対する豊饒豊漁の予祝習俗がある。

これらは、すべて一年をひとつの周期とし、それぞれの節目節目の行事として伝承され、同族単位や共同体単位または神社や仏閣の領域単位で執り行われている。

この度、生涯学習の一事業として企画し、開催している「鬼学講座」の移動研修の中で山形県上山地区に旧の正月行事として伝承され、執り行われている奇習、「カセドリ」という習俗儀礼を受講生二十数名とともに現地で見学する機会に恵まれ、神社での儀式から門掛けまでの一連の所作所動に触れることができた。

本稿では、この奇習と伝えられる習俗の紹介とともに私個人の当習俗に対する考察を加えて一考とする。

2. 奇習カセドリ

旧の正月の日に山形県上山地区で行われている民間習俗としての年中行事である。今年は、二月十一日に催され、午前九時から市内中心部に位置する上山城に隣接した古峯（こぼはら）神社での祈願式で始められた。

カセドリ習俗は、寛永年間（1623～1639）から旧正月の行事として旧の十三日に内裏を主体として行われる「御前カセ」と旧の十五日に近郷近在から集まり行われたとされる「町内カセ」の二様に分けられて執り行われていたとする口伝を有すもので、現在に伝承されるその姿は、一種異様な容姿と独特な唱え言葉でもって二人から三人のカセドリと付人一人の三人から四人一組でもって市内の各戸を門掛けして廻る習俗である。

容姿は、顔を手拭で包み込み、素肌の身体部分にさらしを巻き、下帯姿の上に直接的に円錐形状に藁で編み上げられた“ケンダイ”というミノ状のものを頭から膝上までスッポリと被り、足には白足袋にワラジばきという出で立ちである。顔があたるケンダイの部分には前方が見え、呼吸ができる程度の小さな方形の窓があげられており、さらに腕穴が両縁側にあげられているほか、すべてが藁の編み込みでとじられている。また、ケンダイの頭頂部分には白い手拭状のものが巻かれており、その容姿はまったくこの世のものとは考えにくいもので、奇異にさえ感じられる風体を呈すものである。

唱え言葉には、訪れを表現する言葉と祝言葉の二様がある。前者は各戸の門前に訪れた際に唱えられるもので、“カセドリ参りました”の挨拶の後に“ケロケロ”とか“ホトホト”・“トヘトヘ”・“パタパタ”等の様々な意味不明の擬声音が発せられる。

後者は、その後に唱えられるもので“カセドリ カセドリお祝いだ 商売繁盛万作だカッカッカーのカッカッカー”と言うようなテンポのあるリズムでもって唱えられ、祝言葉が輪踊りとともに三～四回繰り返し唱えられる。その際に訪問先から手桶いっぱいに入った祝水を柄杓で頭からかけられ、終了すると付き人が御祝儀をいただき次の家へと廻るといふものである。

現在、上山では、この“カセドリ”に「稼ぎ鳥」とか「火勢鳥」の漢字をあてて、火伏せのための年中行事として、来訪するカセドリに水を浴びせることによって「火難」を防ぐものとし、さらに水商売をしている家では水にあやか



り、商売繁盛を祈念するものとされ、現在に伝承されて執り行われてきている。

3. 農耕予祝儀礼と陰気追放

「火伏せ」や「商売繁盛」の習俗として周知され、毎年執り行われている“カセドリ”習俗の本来の姿に付いて考えてみる。

国内に伝承される民間行事は、前述のように、一般的に農耕の収穫に伴う予祝の儀礼に起因するものが多くみられる。元来、農耕民族の信仰となる対象は何と言っても“太陽”である。太陽に生気がないと収穫物の生育はままならず、人間の生活全般に支障を来すこととなる。このため農耕民族での予祝儀礼は、一年をひとつの周期として、その節目節目に太陽の復活祭を行うのである。中でも12月から2月の冬の時期は、農耕民族にとって農閑期となるが、作付けをする春を迎えるための重要な時期でもある。

この時期は、古代中国の思想である「陰陽説」によると“太陽”が減し、すべてのものが死滅する時期とされ、農耕に携わる者にとって最悪の陰の気を有す季節となる。この思想が民間に伝承され定着すると、一年の中で重要な時期に“太陽”が死滅することは死活問題につながり、太陽の復活を予祝する各種の儀礼習俗が派生する。これが現在、冬季間に各地で盛んに執り行われている陰気追放のための儀礼習俗、“太陽復活祭”の本来の姿である。儀礼習俗は様々であり、地域によって異なるが、身近な風習としては、春の到来を告げ、陰気追放を表現する花や緑色のもの、さらには収穫を意味し豊饒を予祝する餅や果実を用いて玄関に飾り付ける。花を表現するミズキだんご飾りや太陽を表現する鏡餅、門松飾りが一般的な習俗として本来の姿を変えた考えで個々の家々で祀られている。

4. カセドリ習俗の意味

陰気追放儀礼には、寺院及び神社で行われる松例祭や花祭・追儺祭・御田植祭・修正会鬼祭・瀧山寺鬼祭・デデンガッサリヤ祭・田遊び祭・鬼すべ祭（鷲替え神事）・鬼追い祭・節分鬼踊り・鬼屋ぞんべら祭・ただ押しなど数限りない各種の儀礼が色々な姿で行われている。このほか民間においても各種の予祝儀礼が行われ、その中でも特異な習俗としてナマハゲやスネカ・アマメハギ・パーントウ・チャセゴ・カセドリなどと呼ばれる習俗がある。これらはすべて各家々に訪れて陰気を追放し、春の訪れを告げる来訪習俗であり、「まればと」的な性格を有す習俗でもある。

“カセドリ”は、旧の正月という陰気の真っ只中に行われる儀礼習俗である。出で立ちは前述したように、顔を手拭で覆い、さらには円錐形状に藁を編み込んで製作された「ケンダイ」というミノ状のものを頭部から膝上までスポッリと被り、両腕と両足を出し、足にはワラジという姿で各家々に訪れる。

この姿は、藁という収穫の産物を使用して編み上げた「ケンダイ」という特異なものを身に付けることによって、人間とは異なる得体の知れない“もの”となることを意味する。秋に収穫される藁で編み上げられたケンダイの形は、円錐形状を呈し、これを身につけたカセドリの姿は、正に実り多き稲穂を収穫し、自然乾燥する際の方法である“ホニオ（ホンニョ）”の姿を想定させるほど酷似する。これは太陽神によってもたらされた恵みをホニオに転化した姿であり、ホニオ自体が太陽神となり、それを身につけるカセドリこそが太陽神の昇華された姿であると考えられる。すなわち得体の知れないカセドリが来訪し、門口や玄関先で唱え言葉とともに数人で輪踊りをするということは、その家々に太陽の復活、いわゆる春の訪れと秋の収穫の際にはホニオが多く立ち並び、より多くの豊饒を確約するという事なのである。さらに訪れた際に発するコロコロ・パタパタ・ヘトヘトなどの擬声は、春の訪れを表現したものと考えられ、陰気の追放を表すものである。また、来訪したカセドリに水を掛ける行為は、水の役割を最大限に生かされた行為であり、植物の生育には、水は欠かすことのできないもので、より多くの水を掛けることで生育の成長を促進し、より多くの実りを太陽神に確約させるという一種脅迫に似た予祝儀礼であると見られる。なお、輪踊りの際に足を高く上げ地面を踏み付ける所作は、“反問”の所作とみることが可能であり、陰気の追放を表現した動作であると推察することができる。

このように、カセドリ習俗は、ナマハゲやスネカ習俗と共通する要素を多分に含むもので、農耕儀礼に密接に関係した習俗であり、冬という陰気の中で行われる太陽神の復活と陰気の追放を兼ね備えた民間の生活に密着し、生み出され行われている特異な習俗であり、この時期にこそ最大の力を発揮できる土着習俗であると考えられる次第である。

鬼の里だより

◎企画展・特別展

〈特別展〉鬼・おに・オニ「祈りの対象」～魔神と悪魔～
 9/26～11/14 =入込客数 3,965人=
 〈特別展〉開放事業②「市民の彫刻作品展」
 11/23～2/20 =入込客数 3,409人=
 〈特別展〉平成16年度収集資料展「絵で見る義経」
 3/1～4/17 (開催中)

◎鬼っこわんぱく講座

1/9～2/6 (連続5回)「鬼剣舞体験」
 修了 12人

◎鬼ッズ・プレイミュージアム

10/1～3/31 張り子作り 参加者 92人
 出前講座 利用者 156人
 〈冬休みワークショップ〉
 張り子作り 参加者 49人
 鬼絵版画 参加者 35人
 百鬼夜行(切り絵) 参加者 8人

◎鬼の館芸能公演

10/24 谷地鬼剣舞保存会 観客 116人
 11/21 御免町鬼剣舞保存会 観客 169人
 3/27 谷地鬼剣舞保存会 観客 122人

◎◎鬼学講座

①11/20 受講 24人 ②12/5 受講 21人
 ③12/19 受講 24人 ④1/15 受講 23人
 ⑤2/10～2/11 受講 24人

◎平成16年度入館者数(開館日数 328日)

	小中学生	高校生	一般	計
有料	3,044	408	20,329	23,781
無料	2,907	132	7,070	10,109
計	5,951	540	27,399	33,890

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
 なお、入館は午後4時30分まで。

休館日
 ・12月～3月の月曜日
 ・12月～3月の国民の祝日の翌日
 (土・日・月曜日の場合は火曜日)
 ・館内整理日(11月27日～11月30日)
 ・年末年始(12月28日～1月4日)
 ・臨時休館日(5/24・7/26・9/27・11/22)

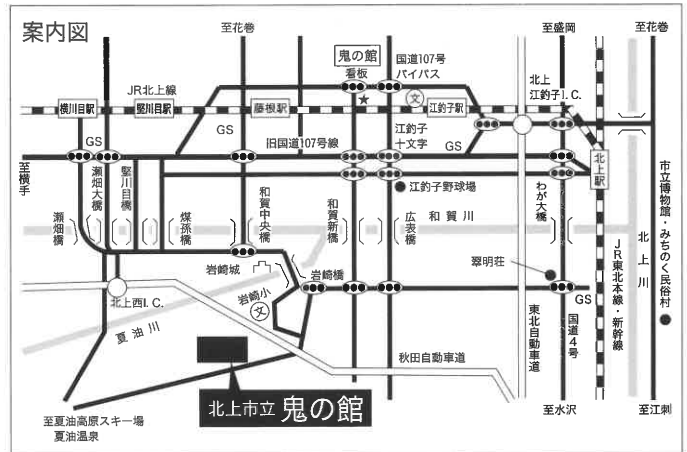
入館料	一般	300円(250円)
	高校生	200円(150円)
	小中学生	150円(100円)

()内は20人以上の団体料金。

下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土・日曜日
- ・学習活動で申請利用する時

交通案内
 ・JR北上駅西口よりバスで25分。
 煤孫経由横川日行、瀬美温泉行「岩崎橋」
 下車徒歩10分。
 ・JR北上駅より車で20分。
 ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第22号 2005.3.31

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地
 TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508